

羽場 久滉子著「拡大ヨーロッパの挑戦—アメリカと並ぶ多元的パワーとなるか—」

中公新書 2004年6月25日刊を読む

拡大欧州はアメリカに並びうるか—日本の課題—

## 1. 拡大欧州は、アメリカに並ぶパワーとなるであろうか。

その条件はある。すでに経済力で、拡大欧州はアメリカに並び、人口(市場、労働力)では、アメリカを大きく超えている。さらなる発展と、国際秩序として重要なパワー(勢力)となるための条件は、以下の点に求められるであろう。

(1)第一は、拡大欧州が、多国協調主義(マルチラテラリズム)を維持し、域内においても、域外に対しても、多様性を容認し、異質者との平和的共存を認めることである。このことは新しく加盟した中・東欧の「ヨーロッパ意識」を促し、内部の結束を固め、さらにはイスラムや中国に対応する国際機関の場でも、協調とモラル的優位を勝ち取ることができよう。

(2)第二は、グローバル化の広がりの中で、「社会的ヨーロッパ(ソーシャル・ヨーロッパ)」を維持し、地域格差、失業、移民政策、社会保障に敏感に対応した、社会的弱者を包摂し、安定と発展をともに実現していくような政策を実行することである。これは、広範な農民層や失業者・若者・高齢者が、極右ナショナリズムに期待を抱き、反EUに結集しないためにも、またEUの掲げる「人権擁護」の観点からも、必要であろう。

このことは、地域格差や社会的敗者を不可避的に生み出すグローバル化による経済競争が21世紀において避けられないかぎり、その手当(ソーシャル・セイフティ・ネット)が必ず要求されるという点でも重要である。

(3)第三は、以上のような多様性・多元性と社会的結束に基づいた、安定的なさらなる経済発展と国際規範の遵守である。イラク戦争でアメリカの「民主主義」が蒙った「信頼性の喪失」はきわめて大きい。こうした中で、国際規範を維持し、国際秩序をリードする役割をもち、経済的にも安定した勢力の出現が、今ほど求められているときはない。拡大ヨーロッパはそれにかなう力を蓄えてきている。

2. アメリカのユニラテラリズムの時代は終わりつつある。21世紀の国際秩序の担い手は、軍事力だけではなく、総合的な経済力・外交力・国際的モラルが必要であろう。来たるべき多極化の時代に向け、日本も、アジアとの協力、そしてアメリカに並び成長しつつある欧州との協力を、改めて真剣に考え直す時代に来ているのではないだろうか。

P208 ~ 209

### 3. 日本の課題

- (1) こうした中で日本の課題は、アジアにおける地域協力と同様、EU とアジアの地域協力において、また日本とヨーロッパの関係においてどのような役割を担っていくかということであろう。とりわけ台頭する中国が、経済力とともに政治力・軍事力を含めて世界秩序における独自のビジョンを持って登場している中で、日本も政治面、安全保障面、文化面でグローバル時代の独自のビジョンを提示する必要があるだろう。
- (2) これまで日本は世界第二位の経済大国として安定した地位を享受してきた。しかし経済が国家単位から地域単位、グローバル単位に移行し、国力は経済力、軍事力、外交的政治力、文化発信力や交渉力の総体として測られるようになってきている時代において、10年後、20年後の国際社会における日本の位置はいまだ不透明である。
- (3) そうであるからこそ、中国を含むアジアとの協力、アメリカに並ぶ経済力を持つ拡大欧州との協力など、多元的な外交が日本にとっても必要となってきたと言える。

P207

#### [ コメント ]

世界的大不況の現在、本書の言うとおり、「欧州拡大と日本の役割の重要性」は大きくなることはあっても小さくなることはない。今こそ、目を米国だけではなく欧州はじめ世界に向けて、日本や世界の将来を自らの頭で考えねばならない。

- 2009年4月1日林明夫記 -